

杉の子こども園（仮称）開園に向けて

習志野市のこども園は、地域や子育て、子育ての拠点として、地域住民や地域施設との連携を図りながら、子ども自身の育ち、保護者の子育て支援を行うことを、「習志野市のこども園」「習志野市の目指す保育一元化」でも述べられています。

杉の子こども園は、昭和37年11月に杉の子幼稚園として開園し、平成24年4月より、今までの杉の子幼稚園4、5歳児の幼稚園児に、長時間保育児が加わり、杉の子こども園（仮称）として開園します。

0歳児から就学前までの子どもたちが保護者の就労にかかわらず、共に安全に安心して過ごすことができる幼保一元化施設です。そのため、幼稚園教諭と保育士がその専門性を発揮しながら一体となり、乳幼児の心身の発達に合わせた一貫した保育・教育方針に基づき、子ども一人一人の成長を導き支えます。

杉の子幼稚園としては創立以来50年を経過し、近隣の方々や保護者、小中学校、近隣施設などと温かなふれあいを大切にしてきました。また、実のなる木と緑に囲まれた自然豊かな環境とのふれあいを通して、五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚）をふるに活かして、心豊かで自ら学ぶ力を培い、小学校以降の学力の基礎を養うことを大切にしてきました。これらの地域の特性や経営方針を継承しながら、心豊かでたくましい子どもを育成していきます。

1 経営

(1) 保育・教育目標

- 人間尊重の精神に基づき、心豊かでたくましい子どもを育成する。
 - ・ 元気な子（気力・体力）
 - ・ 思いやりのある子（心・人間性）
 - ・ 考える子（創造性・知力）

(2) 経営の方針

- 保育者との信頼関係を基盤として、のびのびと生活や活動ができるように保育環境を整え、乳幼児の発達や特性を踏まえ、主体的に生活できるように職員の協力体制の下、一人一人に応じたきめ細やかな支援や指導を推進する。
- 五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚）をふるに活かした様々な体験を通して、感性・創造性・思考力の芽生えを養う。
- 0歳児から5歳児までの異年齢の多様なかかわりを通して、人とかかわる心地よさや思いやる心を育む。
- 小学校や近隣施設との連携により、保育と教育の充実と小学校教育への滑らかな接続を図る。
- 地域や保護者との連携の下、子育て家庭の支援を行う。